

大学院看護学研究科の授業評価結果に対する考察（平成 25 年度）

副学長・研究科長 草間 朋子

平成 24 年度に開設した「高度実践助産学コース」が完成年度を迎え、免許取得プログラムの学生全員が助産師国家試験に合格することができました。これは、学生の努力はもとより、臨床教授、実習指導者の皆様方のご支援とご協力の賜物であると感謝申し上げます。

一部の共通科目（保健医療福祉システム特論、看護教育学特論、看護管理学特論）を除き、「高度実践看護コース」と「高度実践助産コース」は、各コースの特殊性を考慮したカリキュラムで教育を行っております。

【高度実践看護コース】

- 授業評価の対象科目は 20 科目で、授業評価への回答者は述べ 377 人(対象 383 人に対して回答率 98.4%)でした。
- 学生の授業に臨む姿勢に対しては、83.1%以上の学生がポジティブな評価をしております。
- 授業への期待に対する充足感、授業の進め方に対する満足度に対しては、科目によるばらつきがかなり大きいのですが、全科目を通して 50～60%がポジティブ評価をしているものの、10%強の学生がネガティブな評価をしている状況を真摯に受け止め改善の努力をしていきます。
- 自由記述の「授業に対する肯定的評価」265 件、「授業に対する要望等」191 件、計 456 件に関しては改善すべき点については積極的に取り組んでいきたいと思っております。大学教員は、看護職としての経験豊富な学生に対峙することを認識し、臨床現場との連携を常に保ち授業に反映していく努力が必要であると改めて実感しております。一方、学生は、今まで看護教育の課程、看護の実践現場では経験しなかった医学的な思考力・判断力の養成、知識・技術の修得を主たる学習目標であることをしっかり認識し、授業時間以外の自己学習に対するポジティブな自己評価が 65.3%程度であるという状況を改善する努力も求められると思っております。

【高度実践助産コース】

- 授業評価の対象科目は 28 科目で、授業評価への回答者は述べ 141 人(対象 244 人に対して回答率 57.8%)でした。昨年度の 6.7%に比べると大きな改善でしたが、授業評価の結果をカリキュラム等に反映していくためには、さらに高い回答率を期待したいと思います。
- 学生の授業に臨む姿勢に対しては、80.9%以上の学生がポジティブな評価をしております。しかし、授業内容を理解できたかに対しては、ポジティブな回答は 69.5%程度でした。限られた時間内で教授できることは制限されることを理解し、授業時間以外の自己学習が 65.3%程度であるという状況を改善する努力も学生には求められると思っております。
- 授業内容の理解、授業への期待に対する充足感、授業の進め方に対する満足度に対しては、70%程度がポジティブ評価をしております。高度実践看護コースと同様に、大学教員には、助産、産科・婦人科の臨床現場との連携を常に保ち、臨場感をもった授業に取り組む努力がさらに必要であると実感しております。
- 自由記述の「授業に対する肯定的評価」58 件、「授業に対する要望等」23 件計 81 件に関しては、担当する先生方の今後の取り組みに反映させていただくこととします。